



アンデルセン童話  
イラスト くま あやこ

むかしむかしあるところに、  
あたらしくてうつくしいふくが、  
大すきな王さまがおりました。



もっているお金をぜんぶふくにつかって、  
いつも、きれいにきかざっていました。

そしてまい日、一じかんとにふくをきがえました。

ある日、二人のうそつきの男が王さまのところにやってきました。

**男1** 「初めてお目にかかります、王さま。

わたくしどもは、

はたおりしよく人です。

王さまのために、

それはそれはうつくしい

ぬのおることができます。」

**男2** 「しかも、そのぬのは

よにもふしぎな力を

もっています。

おろかものには、

けっして見えないのです。」

それをきいた王さまは、

かんがえました。

**王さま** 「これはおもしろい！

そのふくをきたら、かしこいものと

おろかなものを、見わけることができるぞ！」

王さまは、ぬのおるようになっています。

そして、お金をたっぷりわたしました。



さて、二人は二台のはたおりきをつかって、ぬのおるふりをしました。

そして、

男1 「一ばん上とうなきぬ糸をおねがいます。」

男2 「一ばんりっぱな金をください。」

と、おねがいしては、じぶんたちのふところに入れました。



王さま 「どれくらい布ができたか見てみたいな……。

でも、もしそのぬのが見えなかったら、

おろかものだといわれてしまうぞ。

そうだ、ひとまずあのしょうじきもの

大じんをつかわそう！

あれは、ちえもあるからな。」

大じんは、一人がはたらいているへやへ行きました。

大じん 「どうか、ぬのが

見えますように！

おや、なにも

見えないぞ！」

男1 「大じんさま、

もっとちかくによって、

よく見てくださいます。」

男2 「がらもいろも

みごとでしょ！」

大じん 「たいへんだ！見えない！

わしがおろかもの？

おりものが見えないなんて、

うっかりしられたらたいへんだ！」



男1 「どうしましたか？」



大じん 「おお、みごとー！みごとー！

まことにすばらしいぬのじゃー！

このがらといい、いろといいー！

そうじゃー！王さまに、とてもうつくしい、

みごとなぬのだと、つたえることにしよう。

うんうん。」

男2 「おほめいただき、ありがとうございます。」

王さまは、大じんからほうこくをきいて、

とてもおよろこびになりました。

王さまは、こんどはまじめなおやく人に見に行かせることにしました。

そしてこのおやく人も、

大じんとおなじでした。

なんどもなんども見ました

けれども、なんにも見えません。



このまじめなおやく人も王さまに

やく人「それはそれは、

うっとりするほどみごとなぬのでした。」

と、ほうこくしました。

そしてこのころ、このぬののうわさが、  
町中にひろがっていました。



まちのひと 「いままでがない、みごとなぬのだそうだ！」  
まちのひと 「おろかもものには見えないぬのらしいよ！」



いよいよ王さまも、ぬのが見たくなりました。

そこで、大ぜいおともをつれて、

はたおりのへやに行きました。

二人の男はこのときとばかり、

大はりきりです。

男1 「王さま、いかがですか？すばらしいでしょう？」

王さま 「これはいったいどうしたことじゃ！

わしにはなにも見えんぞ！

このわしが、おろかものだというのか？

王さまにふさわしくないというのか？

ま、ま、ままことに美しい！

気に入ったぞよ！」



まわりのけらいたちも

けらい「うつくしい！みごとだ！」

けらい「すばらしい！」

けらい「さいこうだ！」

と口ぐちにいいました。

そして、このすばらしいぬので

あたらしいふくをつくって、

ちかぢか行われるパレードで

きることをすすめました。



男1 「王さま！あたらしいふくができて上がりました！」

王さま 「うむ。」



男1 「王さま、こちらがズボンでございます。」

こちらが上ぎでございます。

これがガウンでございます。」

男2 「こちらのふくは、とりのはねのように

かるうございます。

きてごらんになっても、

なにもきていないように

おもわれるかもしれません。」



男2 「王さま、おそれながら、

おきがえのお手つだいをいたしましょう。」

王さま 「うん。」

男たちは、できあがったつもりのあたらしいふくを、  
一つ一つきせるフリをしました。



けらい 「なんてごりっぱなおすがたでしょう！」

けらい 「おにあいでいざいますー！」

けらい 「すばらしいー！」

やく人 「パレードのじゅんびがととのいました。」

あたらしいふくのおひろめです。  
王さまは、パレードのまん中を  
どうどうとあるいていきました。

するとまちの人びとも、  
まどから見ている人たちも、  
みな口をそろえていきました。

まちのひと「王さまのあたらしいふくは、

なんてステキなのでしよう！」

まちのひと「ほんとうによくおにあいですことー！」

まちのひと「すてき！」

だれもじぶんにはなにも見えないなどと、  
いえませんでした。

じぶんが、おろかものだとおもわれてはこまりますから。



そのとき、一人の子どもが王さまのまえでいいました。

子ども 「あれ？王さまは、はだかだ。」

なんにもきていないよ！

ぼくには、きれいな服が見えないよ。

はだかだよ。」



まちのひと 「王さま、はだかだ。なんにもきていない！」

まちのひと 「王さま、はだかだ。なんにもきていない！」

とうとう、けんぶつしていた人は、

一人のこらさげびはじめました。



まちのひと 「王さま、はだかよ。なんにもきていないわ！」



まちのひと 「王さま、はだかだ。」

なんにもきていない！」





王さま「どうやらみんながいつている

ことはほんとうのようだ・・・。

でも、いまさらパレードを

やめるわけにはいかない。」

王さまは、じっとまえを見ながらあるきつづけました。

お  
わ  
り